

| | |
|---|---|
| 教育目標(めざす児童生徒像) 心豊かで たくましく生きる 子どもの育成 【めざす学校像】 落ち着きと温かみのある楽しい学校 【めざす子ども像】 よく考える子 助け合う子 元気な子 | 今年度の指導の重点 向陽プライド～成功体験を味わわせ 自己肯定感を高める指導の徹底～ (1)学ぶ意欲の育成と学力向上 (2)心の教育の充実 (3)体力向上と健康増進 |
|---|---|

| 調査結果について(調査結果において明らかになったこと) | |
|---|--|
| 【学力状況調査の結果】 <全国> ○国語A、算数A、については、県平均と比べると正答率が低い。 ○国語B、算数Bについては、県平均と比べると正答率はかなり低い。 ○国語Aのことわざの使い方、漢字の読み書きについては、やや県平均を上回った。 「三度目の正直」…本校90.5%(県89.7%) 「申しこみ期限」…本校95.2%(県95.1%) 「箱が空いてあります」…本校76.2%(県75.2%) ○国語A、Bとも、「話すこと・聞くこと」領域については、大きな課題がある。 ○算数Aについては、「量と測定」領域に特に課題がある。 ○算数Bについては、「数と計算」領域に特に課題がある。 <県> ○3、4、5年は、国語、算数ともに県平均と比べると正答率が低い。 ○国語については、「書くこと」領域に特に課題がある。 ○算数については、特に3年生の「量と測定」領域と、5年生の「図形」「数量関係」領域に課題がある。 | 【学習状況調査の結果】 ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合は、県平均と同程度である。 ○全く家庭学習をしない割合が、県平均より多い。 ○平日のテレビ等の視聴時間が1時間未満の割合が、県平均より多い。 ○平日ゲームをする時間が1時間未満の割合が、県平均より少ない。 ○平日1日当たりの読書時間は、県平均と同程度である。 ○全く読書をしない児童の割合が、県平均より多い。 ○あいさつ運動に継続して取り組んでおり、「自分からすすんであいさつしよう」とする意識は昨年度より高くなっている。 |

| 成果 | 課題 |
|--|---|
| ○算数科を中心に、「めあて」「ふりかえり」のある授業を行うことで、自分の考えをもつことができる児童が増えた。 ○授業にユニバーサルデザインの視点を取り入れることで、視覚に訴え「どの子にもわかる授業」づくりに取り組んでいる。 ○朝学習で、全校一斉の「100マス計算ウィーク」を実施したことで、基礎的な計算力の向上につながった。 ○漢字の読み書きについては、朝学習や家庭学習で継続して取り組んだことで、定着が図られてきている。 | ○国語・算数ともに、基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童の割合が多い。 ○国語・算数ともに、全体的に活用型の問題や記述式の問題を苦手としている。 |

| 何を(改善すべきこと) | いつまでに(成果検証の期限) | どこまで(対象と達成目標の設定) | どのように(方策) | 達成状況(12月末現在) | 達成度 | 達成状況(年度末) | 達成度 | 次年度への改善点・重点課題 |
|---|----------------|-------------------|---|---|-----|--|-----|---|
| 朝学習において問題データベース・Webシステムのプリントを活用し、課題克服に取り組む。 | 12月まで | 3～6年を中心に 繰り返し取り組む | 学年(学級)全体として課題のある問題に特化して取り組み、誤答の理由を全体で共有する。また、個人の課題にあったプリントを用意し、苦手克服を図る。 | 全学年で、問題データベースやWebシステムの題に応じたプリントを活用し、課題克服に取り組めた。全校一斉の計算ウィークも実施し、基礎学力の定着に取り組んだ。 | B | 4、5年生を対象に、週1回国・算の時間を使って学力向上タイムを設け、継続的に取り組んだ。多くの教員で細々の課題克服にあたり、既習事項の確認ができた。 | A | 今年度は3学期から実施した授業時間を使っての学力向上タイムを、年度当初から、計画的・継続的に取り入れていく。学年も3年生以上に拡大し、全校・全職員を上げた取り組みにしてい |
| 週末に補充プリントを宿題にし、家庭学習として取り組ませる。 | 12月まで | 4・5・6年生を対象に | 毎週金曜日に基礎的な課題の習熟にむけたプリントを用意する。その後、全体の傾向を分析し、誤答の多かった問題や解答のポイントを全体で確認し、事後指導に活かす。 | 10月から全部で9回の「週末チャレンジ」を実施できた。校内研修で丸付けをして誤答の傾向をつかんだり、各クラスで模範解答の解説等を行ったりした。 | A | 3学期も全8回、合わせて17回の「週末チャレンジ」を実施できた。模範解答の提示はもちろん、解き方のコツやポイントの整理など、学年に応じた指導ができた。 | A | 補充プリントによる取り組みの継続と、朝学習の時間を活用した全校一斉の基礎学力向上のワークの取り組みや、漢字・ことば・音読・計算の力をつける指導の充実を図る。 |
| 対応数直線(線分図)の活用と理解 | 12月まで | 4・5年生の課題正答率80%以上 | 低学年時から、数直線(テープ図)を使った問題に数多く取り組ませる。 4、5年生では、授業改革推進員による示範授業を中心に授業改善に取り組み、授業の中で理解を深める。 | 単元に応じて数直線や図を使った指導に特に力を入れて取り組んだが、共通理解・共通実践が不十分。校内研修などで、全職員での理解を深めていく必要がある。 | C | 「どの子にもわかる」授業をめざして、全学年、全職員が授業改善に取り組み授業を公開できた。視覚に訴え、全員参加の授業を構築するための手立てが整いつつある。 | B | 対応数直線を使った指導や、読み取り方・説明の書き方の指導など、全学年共通で統一した指導法となるよう、校内研修で共通理解を図り、共通実践を蓄積していく。 |

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

| 小中連携の取組 | 保護者・地域へ理解・協力を求めること |
|--|--|
| ○西中学校ブロック全体で「ノーマディア週間」を設定し、テレビ・ゲームの時間を減らそうする意識づけを図る。 ○「チャイム同時スタート チャイム同時終了」の意識を徹底し、時間の切り替え、けじめの大切さを実感させる。 ○ペア・グループ学習など、授業の中に学び合う場面を入れ、自分の考えを広げ深めさせる。 | ○学期に1回「宿題忘れゼロ週間」を設定し、家庭学習の習慣化を図る。 ○保護者にはテスト結果を伝え、個々の課題についての現状把握と課題克服にむけた理解を深める。 ○週末補充プリントの取り組みの意義を伝え、保護者・地域への協力をお願いする。 |